

令和2年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

片山中学校区 校番17 呉市立荘山田小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標に沿った分かりやすい経営目標、基礎・基本が大切にされ子供の育成に不可欠な目標であり、継続性の観点からも適切な設定である。 基礎学力向上の取組が成果となるように問題解決にチャレンジしており期待できる。 各指標は数字が用いられ、児童、保護者に分かりやすく評価もしやすいものである。 一部項目を除き目標値に対して達成率も高く、児童の向上心の観点から適切であった。 目標値100%は高い目標値ではあるが、学校の使命である学力向上に向かう教職員の意識の高さ、なんとか子供に基礎学力と共に体力、規則正しい生活習慣を付けたいという学校の熱い思いが伝わってくる。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的項目で具体的な方策を分かりやすく示しており適切である。数値化も可能な方策であり、達成度が良く分かり、児童、保護者の理解度は高まると思う。 高い目標に向かってスモールステップで取り組まれている。学力向上に向け、週時程表に「積み上げタイム」「放課後学習会」を位置付けた全校体制での取組、廊下を走らないということをや「振り返り」をし、「生活リズムアンケート」をチェックする取組など、言うは易いけれども実践は日々大変だと思う。しかし学校が一丸となって取り組んでいることが直に子供にも保護者にも伝わっているからこそ成果が出ていると思う。 目標達成率の設定が明確に分かるようにテーマの共有化とベクトルを併せて展開してほしい。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で不測な事態でありながら、結果や課題をよく分析しており、定量的な分析は説得力もあり適切である。より効果発現要因を分析し、きめ細やかな今後の改善策の検討に繋げてほしい。 廊下を走らなかつた連続日数については、更なるステップの具体的な設定により子供たちの意欲の維持に繋がっている。 コロナに対応した「生活リズム・新しい生活様式アンケート」の取組は、まさに今を生きる子供たちに必要なものであり、柔軟な対応での結果と分析が素晴らしい。 目標値を下げずに子供たちの達成感・責任感・信頼感が大きく芽生える取組姿勢が醸成されている。
今後の改善策(案)の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との具体的な連携策もあり、チーム荘山田としての取組が感じられる。保護者の協力をしっかり得てほしい。 基礎学力の定着の目標値が100%に達してもそれで終わりではなく、まだ不十分な児童や十分達している児童への今後の取組が説明の中で見えてきた。ラダー運動の教職員の研修動画作成など今後の授業改善に向けての具体的な取組も良く分かった。 効果が期待できる適切な改善策である。児童が指標の目標値をどのような取組で達成できるかを主体的に考えられるような施策がもう少しあれば良い。 改善策において、定量的な表現を付け加えることも有効ではないか。 コロナの影響が来年に引き継がれないように、学校が主体となって全職員の目的が一元化されるようにPDCAを構築してほしい。
その他		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での生活環境を認識し、授業中の元気な姿に安心した。感染防止対策等で大変であろうが頑張してほしい。 どの学級も先生方の声のトーンが落ち着いており、子供たちが安心して機嫌良く学んでいた。WITHコロナの中での教職員や子供たちの知恵を出しての学校生活を参観させていただきとても嬉しくなった。 指標について児童が「なぜ」取り組み、「なぜ」目標値を達成しなければいけないのか疑問に思い、その「なぜ」を自ら納得できるようになれば素晴らしい。 児童が楽しめるような指標の設定も必要である。 現在実施されている改善策は荘山田小学校として大きな動きを感じると共に、荘山田ブランディングに期待している。荘山田のブランド力の向上のため学校行事等においても新しい取組に期待する。 いつもホームページの更新がされていることを期待している。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学び」については、習熟を図る指導や個別の指導を継続し、児童の学習の定着度を高める。「学び合い」のスタイルを工夫しながら充実させていく。 「豊かな心」については、右側歩行等の取組の意味を児童に納得させ、振り返りとともに成果の見える化を図り、児童の意欲を高めながら取り組む。また、総合的な学習の時間や生活科において、感染症拡大の状況を鑑みながら、地域に関わる内容の取組を充実させていき、ふるさと荘山田の良さを感じる児童を育てていく。 「健やかな体」については、決められた時刻に寝れない要因を把握し、個別に保護者に協力を求めたり、その要因を解消する取組を実施したりしていく。 「業務改善」については、現在は、コロナ禍で例年と違う状況であるが、通常の学校生活を送ることができるようになった際にも教職員の時間外勤務が増加することがないように、学校行事や業務の在り方を見直していく。
--------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------